

六畳岩二千年回道遊歩道マップ

貝殻山(84.3m)からの眺望景観 (パノラマ写真)



六畳岩(95.8m)からの眺望景観 (パノラマ写真)



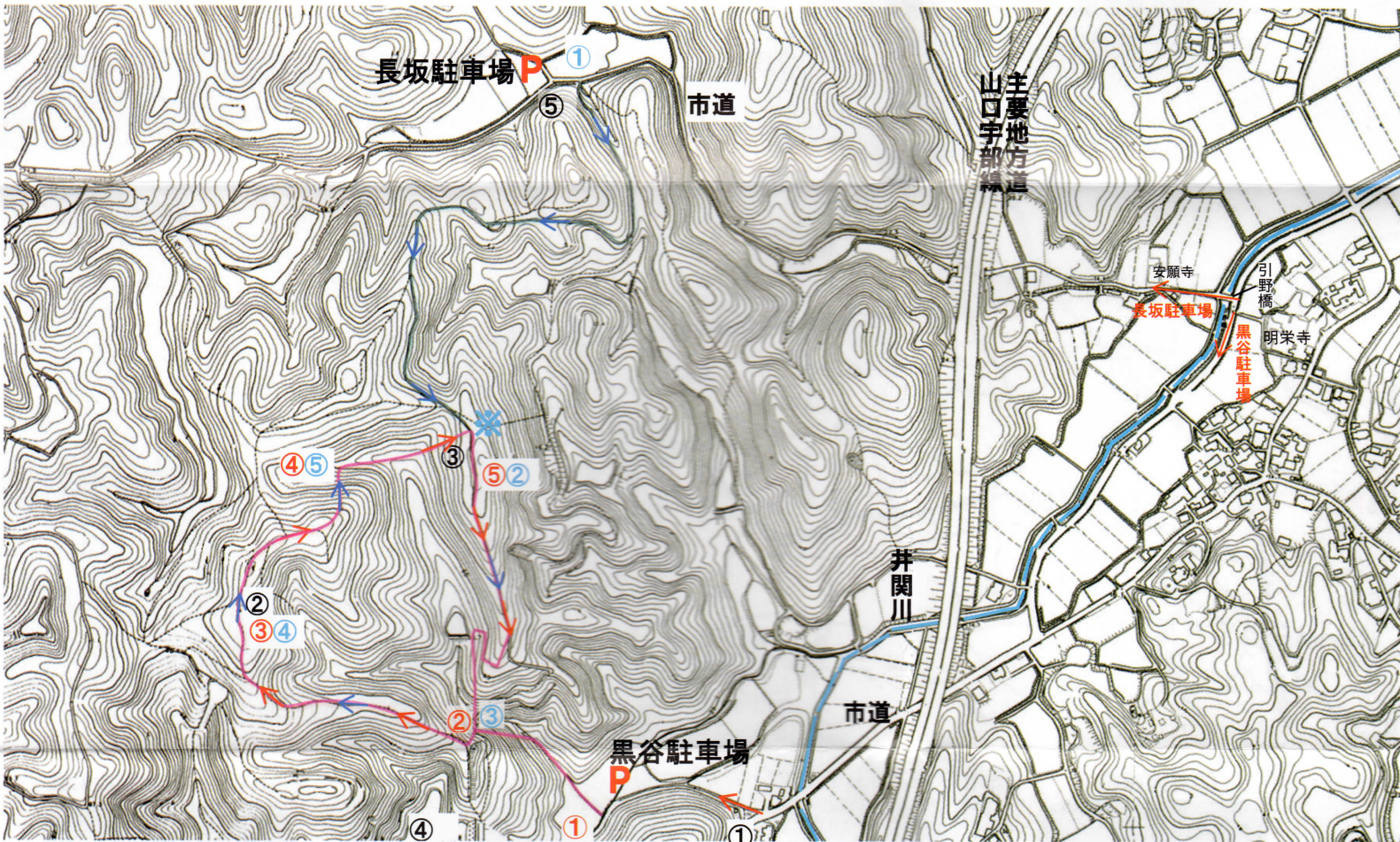
六畳岩二千年回道

この遊歩道は、地元のボランティアグループ「引野同志会」により地域おこしの一環として平成十二年に整備が行われたもので、西暦二千年のミレニアムを記念するとともに弥生人が生活した場所という思いを馳せながら散策できるように、「六畳岩二千年回道」と名付けられました。

令和四年には、遊歩道の周辺の樹木が密生、雑草木が繁茂し景観が損なわれたため、やまぐち森林づくり県民税関連事業「地域が育む豊かな森林推進事業」に引野同志会が取り組み、遊歩道や展望台(二か所)の整備を行ったことで眺望もこれまで以上に改善され、利用者の安全確保が出来、家族連れで楽しめるようになりました。

この遊歩道に、今回二つのコースを設置しました。一つは巨大な一枚岩である六畳岩の展望台を目指す「六畳岩・貝殻山コース」と、あと一つは貝殻山(引野遺跡)の展望台を目指す「貝殻山・六畳岩コース」です。

特に六畳岩展望台からは、北は山口市佐山、南は宇部市西岐波あたりまでの洪積台地や沖積台地が瀬戸内海や大分県の山並みを背景にパノラマのように見渡せます。貝殻山(引野遺跡)展望台からは周防灘(山口湾)、山口市・防府市の山々そして阿知須や東岐波の家並みがすぐ近くにあるかのように見えます。また、コースの東側の沢には長さおよそ九百mの明石川黒谷補水路があり、途中「手掘りトンネル」が五か所(内一か所はコース内)あります。ここは単なる遊歩道でなく歴史探訪の尽きない興味溢れるコースとなっています。



三等三角点(基準点名 六畳岩)

六畳岩(九十五・八四)という山名は地元でも一般化しており、平成十七年十月一日発行の国土地理院地形図にも標記されていました。しかし、平成二十七年二月一日発行の地形図から六畳岩の標記は無くなり、隣接する貝殻山に変更されました。

なお、基準点名としての六畳岩は継続されており、是非ともこのコース内にある三角点を確認してみたいかがですか。※三角点とは、日本の位置(緯度・経度)の基準を表す国家基準点です。各種地図作成、地籍調査など社会基盤の整備に欠かせない情報です。

黒谷池と明石川(みよしがわ) 黒谷補水路

黒谷池は、灌漑用のため池として明治四十年に竣工しましたが、集水域は狭くそのため明石川から水を補うための水路が正時代につくられました。その時水利組合間の取り決めに記した石碑が、貝殻山・六畳岩コース入口付近に建てられています。水路は明石川をせき止めすべての水が入るようになっていた状態なのに、流れる水の量は少なくその速さも極めて緩やかであったことから、これを解消するため万年池から明石川水路を利用して黒谷池に導くために、戦時中の昭和十八年から学徒動員も従事し手掘りトンネルが五か所を開始し万年池と黒谷池はつながりました。昭和二十四年には水の供用

六畳岩・貝殻山コース

① 黒谷駐車場 スタート地点	② 手掘りトンネル	③ 六畳岩展望台	④ 丸木橋	⑤ 貝殻山展望台	② 手掘りトンネル	① 黒谷駐車場 スタート地点
5分	11分	7分	4分	8分	4分	4分

貝殻山・六畳岩コース

① 長坂駐車場 スタート地点	② 貝殻山展望台	③ 手掘りトンネル	④ 六畳岩展望台	⑤ 丸木橋	※分岐点	① 長坂駐車場 スタート地点
15分	8分	11分	7分	4分	14分	14分



①黒谷駐車場入口



①黒谷駐車場
スタート地点



②③手掘りトンネル



③④六畳岩展望台



②三等三角点



④⑤丸木橋



⑤②貝殻山展望台



③貝塚



④黒谷池



①長坂駐車場
スタート地点



⑤明石川黒谷水路石碑

お問い合わせ

阿知須地域づくり協議会

〒754-1292 山口市阿知須2743番地

☎ 0836-65-4127

E-mail: ajdukuri@c-able.ne.jp

阿知須の歴史の流れ

阿知須の歴史は今から一万年数千年前の後期旧石器時代にはじまります。阿知須の地では先史時代、そして原史時代の遺跡や遺物の発見地が少なく歴史の推移を連続して説明できませんが、ここでは阿知須地域で発見された三つの遺跡を紹介します。是非訪れてみてください。

①⑨丸塚山遺跡

今から約四千年前の縄文土器や石鏝などの石器が、また約三千年前の縄文土器や石斧などの石器が丸塚山（ふもと）で発見されています。

旧石器時代は無土器時代でしたが、縄文人は土器を作って使う生活を始めました。この時代の人々は、木の実や草の実を主食としていたようです。また、すぐれた狩人や漁師でもあったようです。縄文後期には集落を作って同じ場所に住み着いて生活するようになったようです。

丸塚山（ふもと）には、六世紀末から七世紀後期（古墳時代）にかけて、土を盛り上げた造られた大きな墓（円墳）が五基あります。

この古墳は当時海辺で塩を作ることで豊かになり、強い力をもっていた支配者を葬った墳墓で、支配者が身につけていたメノウの勾玉、金メッキのイヤリングなどの埋葬品も発見されています。

②引野遺跡

六畳岩のある丘陵性の山を貝殻山とよんでいます。その名のよう貝塚のある山です。この貝塚は、弥生時代の中頃（約二千年前）の遺跡で、貝塚の周りからは住居の跡や穀物を貯蔵する竪穴、そして土器や石器などがたくさん発見されています。多くの人と一緒に生活していた大きな集落があったと思われます。弥生時代は稲作の時代ですが、ここで生活していた弥生人は稲作ができる低地でなく、高いところ（高地性集落）で山を焼き、畑にして穀物を作り木の実を採集したりし、魚や貝も捕まえて生活していたようです。その理由は、当時、井関川の中流まで低地は海であったこと、または、倭国大乱の時代で戦いを避けるために安全な山地に住んでいたのではないかと考えられています。

③領家遺跡

井関小学校から南側にある領家遺跡の発掘調査により縄文時代から近世に至る幅広い時代の石器、土器、木器及び銅銭また石製品などが発見されています。これらの出土品のうち、確かな遺構と結び付け得ることができたのは、ほとんどが古墳時代と中世のものと考えられます。

この一帯に、自然の谷と堀、塀、柵、天倉門で守りを固めた南北八十m、東西百二十mあまりの十六世紀の中頃の屋敷の遺構が見つかりました。

屋敷内には、建物、池と庭の遺構や銅銭（明銭など）や土器、銃弾（鉛の玉）などが出土しています。

この遺構の内容から、農業に関係ある屋敷と見ることは難しく、政治や軍事にかかわる役割を持っていたといわれます。十六世紀の中頃は内氏の力が衰え、毛利氏が強くなり激しく動いた時代で、いつ戦いが起こるか分からない様子であったことを今日に伝えていく大切な遺跡です。

現在の遺跡公園はその一角で、この地下にある矢倉門や堀、塀などの一部を文化財に指定し保存しています。

阿知須地域の地形

阿知須地域の地形は、宇部市との西境にある標高百二十七mの青岳を最高峰に山地・台地・平野と、なだらかに低くなっている地形が特徴です。二つの川が流れ出る海も遠浅です。地表の無秩序に見える凹凸もそれぞれの時代の海水面を基準に形成されたいくつかの地形面に分類できます。阿知須地域のなだらかな地形は、次の三段階の地形に分類されます。

一 地域西部の山地（六畳岩・貝殻山）・丸塚山・日の山など「瀬戸内面」と呼ばれる緑の丘陵性山地

二 小高い所に集落をのせる「更新世段丘（洪積段丘）」と呼ばれる赤土の台地

三 井関・土路石河川の流域に広がる黒っぽい土の「沖積平野」



貝殻山上空から阿知須地域を臨む

①丸塚山遺跡

③領家遺跡



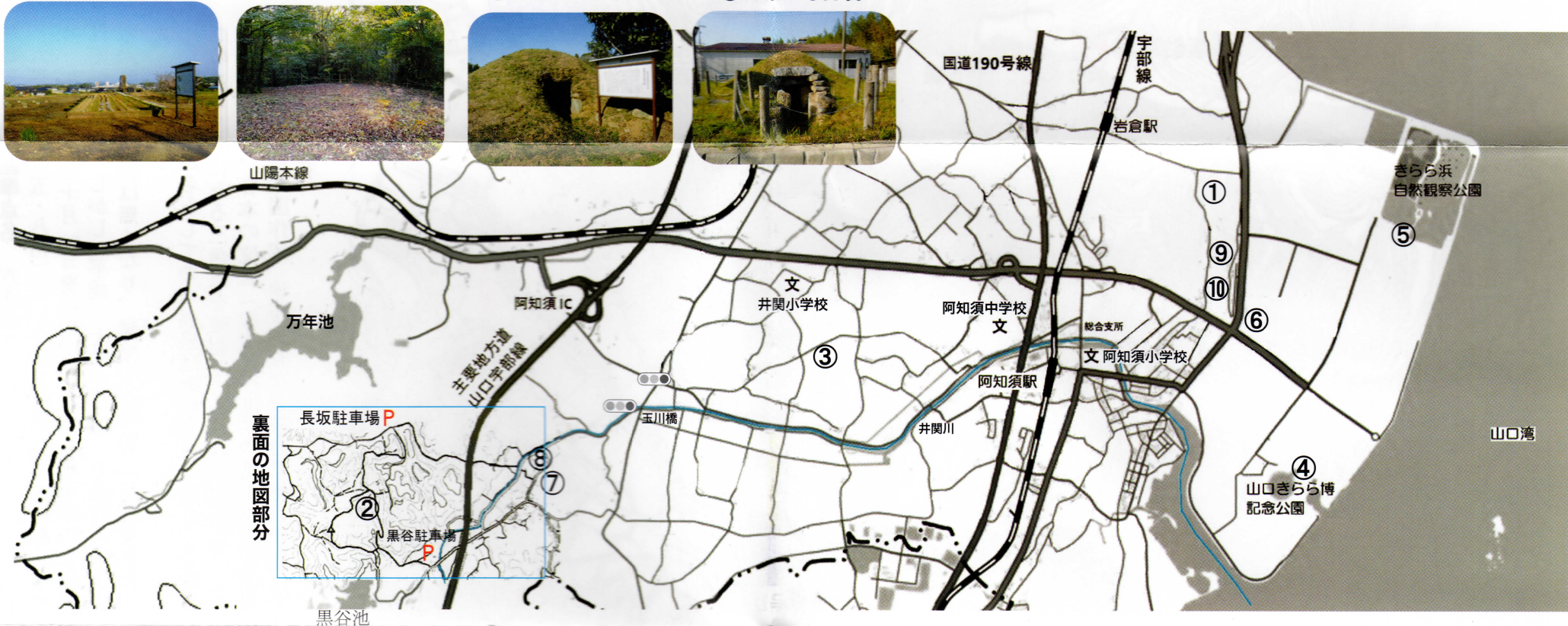
②引野遺跡



⑨丸塚2号古墳



⑩丸塚5号古墳



⑧明栄寺



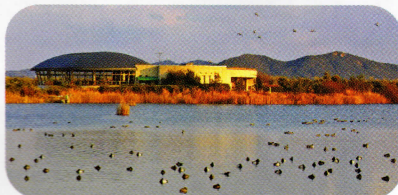
⑦お姫様松



⑥道の駅きららあじす



⑤きらら浜自然観察公園



④山口きらら博記念公園



④山口きらら博記念公園

山口きらら博記念公園は、平成十三年に開催された「山口きらら博」を記念するとともに「新しい健康づくり文化」の創発拠点とする水と緑豊かな自然共生型の都市公園です。東京ドーム約二十八個分、約百三十haという広大な敷地には、非日常を演出する自然豊かなローケーションと様々なニーズに対応できる施設（多目的ドーム、水泳プール、サッカークラウドフィールド、月の海、太陽の丘・トリムの広場、2050年の森、大芝生広場など）が充実しています。

また、駐車場収容台数は八千台以上。アクセスも良いことからライブイベントをはじめ、グルメ・アウトドア、スポーツなど様々な大規模イベントが開催されています。なお、将来的には、県内外から幅広い世代の人が集う施設の導入、具体的には、フラワーガーデンや複合型アーバンスポーツ施設などの整備導入を目指しています。

⑤きらら浜自然観察公園

きらら浜自然観察公園は、野鳥などのたくさんの生きものと、その生息環境を守りながら、だれでも身近に自然を観察し、自然に親しむことができる公園として平成十三年四月二十七日にオープンしました。きらら浜と山口湾周辺一帯は、シベリアやカムチャツカから日本列島を縦断して東南アジアに向かう渡り鳥たちと、モンゴルや中国から朝鮮半島を経由し四国・九州へ横断する野鳥たちの交差点にあります。冬に訪れるカモ類、チュウヒやハイイロチロウヒなどのタカ類、春・秋に訪れるシギ・チドリ類も多く、日本では珍しい迷鳥もよく訪れます。園内には自然観察や自然環境学習の拠点となるビジターセンター、観察展望棟などの施設が整っています。

●開園時間：午前九時～午後五時（ビジターセンター入館は午後四時三十分まで）●休園日：毎週月曜日（休日の場合は翌日）・年末年始（十二月二十八日～一月四日）

●ビジターセンターは大人のみ入館料が必要です。入館料：大人二百円（十八歳以下無料・二十名以上の団体は一名百六十円）

⑥道の駅きららあじす

道の駅きららあじすは、平成十七年三月二十六日に山口県内十八番目の道の駅としてオープンしました。敷地内の特産品売場には、阿知須特産のかぼちゃ「くりまさる」を使った商品が種類豊富に並んでいます。中でも、ほんのりとしたかぼちゃの風味と甘さがしつかりと感じられる「くりまさるのソフトクリーム」は口当たりが滑らかで人気のある商品です。

直売所以外にも、レストラン・パン屋、軽食コーナー、もち工房も併設され、季節により花畑が開園され、春の菜の花、秋のコスモスが一面に咲き誇ります。

⑦お姫様松

古満姫は、宍戸元秀の娘で、毛利輝元の養女となり小早川秀秋に嫁ぎましたが、秀秋が若くして他界したこと、京都興正寺門跡准尊のもとへ入りました。古満姫と准尊の間には、五人の子供があり次男准円が萩清光寺（毛利輝元室清光院の菩提寺）の開祖となりました。

毛利家は古満姫が興正寺へ入る際、化粧料として井関村高千石を付与しました。その縁で准尊が他界した後、古満姫は明栄寺に移り住んでいました。

准円は病を得て、萩から母のいる明栄寺に来て、正保三年（千六百四十六年）死去しました。古満姫は明栄寺の前方この丘に埋葬し、記念の松を植えました。この松は太木に成長して「お姫様松」と呼ばれていました。その根はあたかも母親がわが子を抱くように墓を包んでいるところから「お乳松」とも呼ばれていました。

昭和二十三年秋に松くい虫のために枯れましたが、現在の松は落ちた種から自然に芽が出て成長したものです。

⑧明栄寺の法物

明栄寺には、山口市指定文化財の仏像が二躯あります。一つは、古満姫が礼拝した「阿弥陀如来」は、身の丈三十二・二センチの立像で、一本の檜から彫り出した一木造りと呼ばれ、室町時代の仏像です。もう一つは、陶晴賢が深く信仰し礼拝した「十一面観音菩薩立像」です。陶晴賢が、戦乱の時代に持念仏としていた「十一面観音」は、素木のままの立像で、高さ十五センチ弱、桜材の一木造りで、これも室町時代に造られたものです。

どちらも昭和五十五年三月に阿知須の文化財に指定され、その後、山口市の文化財となりました。平成二十七年三月に修復を終えました。二躯の仏像は通常非公開です。



十一面観音



阿弥陀如来